

園芸タイムリー情報 《8月中～9月上旬版》

令和5年8月18日発行 第4号

【上川農業改良普及センター】

Tel 0166-84-2017 Fax 0166-84-2009

E-mail : asahi-nokai.11@pref.hokkaido.lg.jp

HomePage

<https://www.kamikawa.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.html>

全作物共通

天気は数日の周期で変わり、平均気温は高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並の見込みです。（※気象庁1ヶ月予報より）

- ①高温・強日射の時は、遮光資材などを展張し生理障害の発生を回避します。曇天時の被覆は避け、過度な遮光にならないように注意しましょう。
- ②8月下旬になると夜間の気温が下がり始めます。換気をこまめに行い適温を確保するとともに、過湿状態にならないように注意しましょう。
- ③暴風雨が予報された時は、防風網の点検、ハウスの修理、バンドの締め直し、支柱や筋交いの補強、ハウス周辺の排水溝を掘り下げるなどハウスの防災環境を整えておきましょう。
- ④各種病害虫の多発時期を迎えるため、観察や予察情報に基づき適期に防除しましょう。

※農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用ください。

- ◆農薬の使用に当たっては、使用基準を必ず守りましょう。
なお、品目ごとの栽培防除体系を基に減農薬でクリーンな野菜生産を実践しましょう。
- ◆防虫ネット・近紫外線カットフィルム・粘着シートなどを活用し、適切な栽培管理と合わせ、病害虫の発生を最小限に抑制しましょう。


※この情報は、上川農業改良普及センター本所地域(旭川市、鷹栖町、当麻町、比布町、愛別町、上川町)向けに作成されています。
気象・土壌条件・作業体系から当地域以外には、適用されませんので十分ご注意ください。
(不利益・損害などが発生した場合、当方は責任を負うことはできません)
※掲載されている農薬情報は、令和5年8月2日現在の登録内容となっていますので、活用の際は、あらかじめ安全使用基準を確認くださいますようお願いいたします。

■□■□■□■□■□ GAP手法の活用 □■□■□■□■□■

【環境保全編】

— 農産物の安全性向上・ほ場への炭素貯留 —

- ・農場内の汚れや汚染のリスクを明確にするために、整理整頓し、常に衛生的にする。
- ・農業に伴い排出される廃棄物は、事業系一般廃棄物又は産業廃棄物に分類されるので、適正に処分する。
- ・作物残渣等の不適切な焼却は法令で禁止されているので、処分方法を自治体に確認する。
- ・堆肥や緑肥等の有機物を継続的に活用する。
- ・ほ場に残すと病害虫が蔓延する可能性のある場合を除き、作物残渣をすき込む。
- ・不耕起または省耕起栽培を実施する。

作物名	トマト類	
病害虫 生理障害名		
		
灰色かび病		
発生状況		
	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> がくから感染した 発病果実 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 葉の病斑とかび </div> </div>	
中発生		
発生時期		
	6月中旬～	

発生の状況・要因

- 曇天が続き湿潤な天候が続く場合は、予防的な防除が必要である。
- 昼夜の温度差で、茎葉や果実が結露すると発生しやすくなる。

対 策

- 結露が発生した際は速やかに換気して除湿する。
- 枯れた葉や脇芽の除去は、なるべく晴天時に行う。
- 葉数が確保されたら、下葉を除去して通気性を良くする。

＜防除の一例＞



予防散布で効果の期待できる剤

- ダコニール1000 1,000倍 収穫前日まで 4回以内
 直径3cm以下のトマトと、ミニトマトは2回以内

発生が見られた際に使用する剤

- ファンタジスタ顆粒水和剤
 2,000～3,000倍 収穫前日まで 3回以内

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名	トマト類	
病害虫 生理障害名	 	葉裏のかび 上:葉かび病 下:すすかび病
葉かび病 すすかび病		
発生状況		
中～多発生		
発生時期		
7月上旬～	葉表の病斑(葉かび病)	

発生の状況・要因

- 両病害ともよく似た病斑を形成し、葉裏にかびが見られる。
- 葉かび病は20～25℃、すすかび病は26～28℃で発生しやすく、共に多湿条件で発生が多くなる。

対 策

- ハウスの換気に努め、下葉の摘葉により通気性を確保する。
- 葉かび病は草勢が低下すると発生が増加するのでかん水不足や追肥遅れにならないように気をつける。
- 発生蔓延後の防除は困難なので、予防効果の高いダコニール1000、ベルコートフロアブル、微生物農薬等による予防的防除に努める。
- 発生が増加する場合は、被害葉の除去と下記の治療効果のある薬剤で防除を行う。



<発生確認後の防除の一例> (トマト・中玉・ミニトマト共通)

- トリフミン水和剤

葉かび病：3,000～5,000倍	収穫前日まで	5回以内
すすかび病：3,000倍	収穫前日まで	5回以内
- ファンタジスタ顆粒水和剤

2,000～3,000倍	収穫前日まで	3回以内
--------------	--------	------

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名	トマト類		
病虫害 生理障害名			
うどんこ病			末期症状
発生状況			葉表に発生したかび(発生初期)
中発生			
発生時期			
8月上旬～			

発生状況・要因

- 葉の表面にうどん粉を振りかけたようにかびが密生する。
- 症状が進行すると果柄・へたなどにも発生し、罹病葉は枯死する。
- 20～25℃の乾燥条件で発生しやすい。

- ほ場を乾燥させすぎない。
- 初発が確認されたほ場は早めに薬剤散布を実施する。
- 被害葉や果実は摘除し、残さはほ場外へ搬出する。

<防除の一例>

【予防】

- ダコニール1000 1,000倍 収穫前日まで 4回以内
 直径3cm以下のトマトと、ミニトマトは2回以内

【予防・治療】

- パンチョTF顆粒水和剤 2,000倍 収穫前日まで 2回以内
- アフェットフロアブル 2,000～4,000倍 収穫前日まで3回以内

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、
 倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名

きゅうり

病虫害
 生理障害名

べと病

発生状況

中発生

発生時期

7月上旬～



葉裏に生じた
 カビ

発生の状況・要因

- 始めは、葉脈に囲まれた角形で黄色の病斑を形成し、病勢が進むと褐変する。
- 褐斑病と似ているが、べと病は病斑が黄色味を帯び、葉裏にかびを生じることから判別できる。
- 曇雨天が続いたり、ハウス内が多湿となると発生しやすい。また、肥料切れでも発生が助長される。

対策

- 適正な管理で草勢を保つとともに積極的な換気を行い、ハウス内湿度を高めないようにする。
- 発病初期に防除を開始する。

<防除の一例>

- ライメイフロアブル 2,000～4,000倍 収穫前日まで 4回以内
- プロポーズ顆粒水和剤 1,000～1,500倍 収穫前日まで 3回以内

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名

きゅうり

病虫害
 生理障害名

アブラムシ類

発生状況

少～中発生

発生時期

6月中旬～



アブラムシが保毒するウイルスの
 被害を受けた株(R5年)



寄生するアブラムシ(R5年)

発生の状況・要因

- ・葉の裏に群生し、吸汁害による茎葉の萎凋、排泄物による葉や果実の汚れが発生する。
- ・ウィルスを保毒するアブラムシの吸汁により、株が被害をうけ、生育が著しく停滞する。

対策

- ・きゅうりでは葉裏の寄生により、葉表の褐変が見られるので、ほ場をよく観察し、発生初期の低密度のうちに防除する。
- ・薬剤抵抗性の出現を防止するため、同一薬剤は連用しない。
- ・ウイルス感染の場合は汁液感染が拡大するため、早期に株を抜き取り処分する。

〈防除の一例〉

- アドマイヤー顆粒水和剤
 5,000～10,000倍 収穫前日まで 3回以内
- *天敵殺虫剤（ミヤコカブリダニ）使用の場合は
- ベネビアOD 2,000倍 収穫前日まで 3回以内
- チェス顆粒水和剤 5,000倍 収穫前日まで 3回以内

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名

ウリ類（メロン・きゅうり）

病虫害
 生理障害名

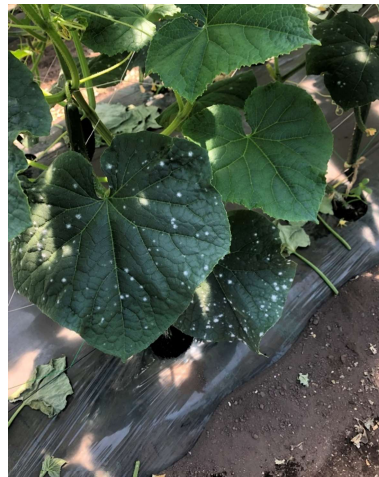
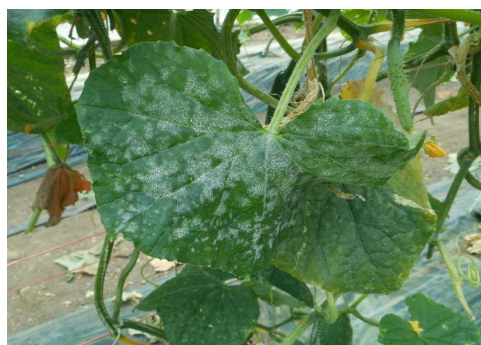
うどんこ病

発生状況

微発生

発生時期

7月上旬



きゅうりの葉表に発生した白いかび

発生の状況・要因

- 葉や茎の表面にうどん粉をふりかけたような白斑を生じ、多発生の時は果柄やへたなどにも発生し、商品価値が低下する。
- 例年、生育後半に発生が多くなるが、乾燥条件により発生が早まる場合もある。
- 過繁茂になると発生しやすい。

対策

- ほ場を乾燥させすぎない。
 - 初発を確認したら薬剤散布を実施する。
 - 被害葉や果実は摘除し、残さは適切にほ場外へ搬出する。
- <防除の一例>
- フルピカフロアブル
 メロン・きゅうり：2,000～3,000倍 収穫前日まで 4回以内
 - ストロビーフロアブル
 きゅうり： 3,000倍 収穫前日まで 3回以内
 メロン： 2,000～3,000倍 収穫前日まで 3回以内
- ※ストロビーフロアブルへの浸透性展着剤の加用は薬害を生じる恐れがあるので避ける。

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

作物名

ウリ類（すいか・メロン）

病虫害
 生理障害名

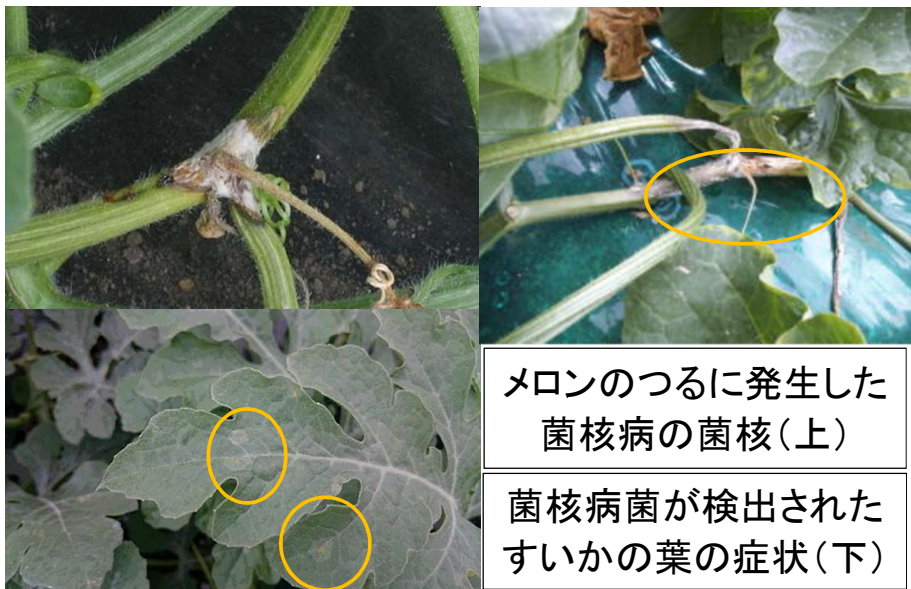
菌核病

発生状況

少発生

発生時期

5月下旬～



メロンのつるに発生した
 菌核病の菌核(上)

菌核病菌が検出された
 すいかの葉の症状(下)

発生の状況・要因

- つるの分岐部や果実の花落ち部に白色のかび（菌糸）を生じて腐敗し黒色の菌核を形成する。
- 20℃前後の比較的低温が続き、多湿の場合に発生が多くなる。
- すいかやメロンでは、着果期を過ぎ茎葉が繁茂したハウスで発生が多くなる。

対策

- 換気を心がけ、ハウス内湿度の低下に努める。
- 着果期前より予防防除を実施する。
- 被害茎葉・果実は見つけしだい除去し、ほ場外へ搬出する。

<防除の一例>

●スミレックス水和剤

すいか 1,000～2,000倍 収穫7日前まで 5回以内
 メロン 2,000倍 収穫前日まで 3回以内

※スミレックスくん煙顆粒はメロンに登録がないため使用できません。

●カンタスドライフロアブル

すいか・メロン：1,000～1,500倍 収穫前日まで 3回以内

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、
 倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

園芸タイムリー情報
 ≪8月中～9月上旬版≫

令和5年8月18日発行 第4号

【上川農業改良普及センター】

Tel 0166-84-2017 Fax 0166-84-2009

E-mail : asahi-nokai.11@pref.hokkaido.lg.jp

HomePage

<https://www.kamikawa.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.htm>

作物名

ウリ類（すいか・メロン・きゅうり）

病虫害
 生理障害名

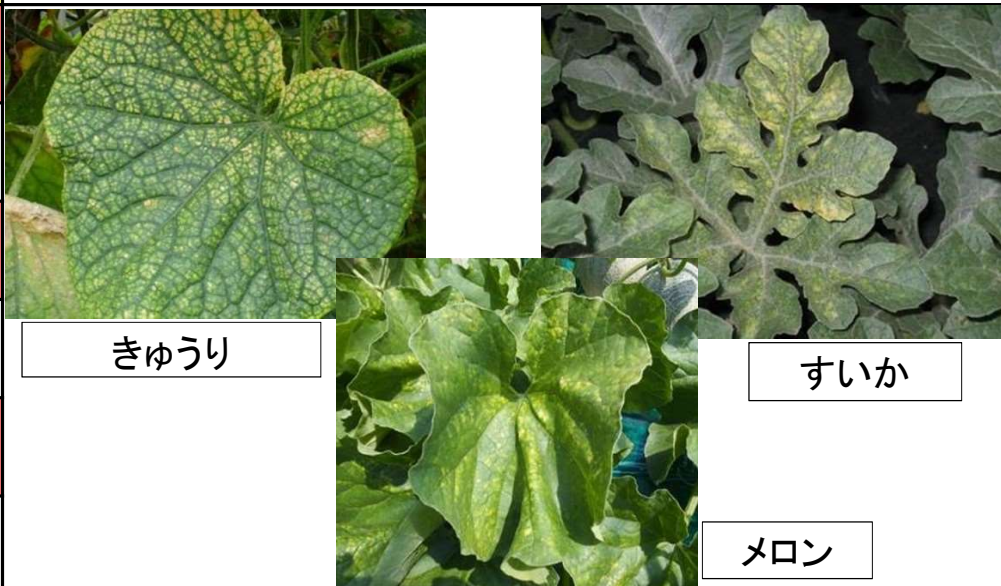
ハダニ類

発生状況

中～多発生

発生時期

6月上旬～



発生の状況・要因

- ・葉の裏に寄生し、吸汁により葉の表に白いかすり状の斑点が現れる。発生密度が高くなると葉全体が黄変枯死する。
- ・高温乾燥を好むため、ハウスでは露地よりも早く発生する。

対策

- ・ほ場をよく観察し、発生初期の低密度のうちに防除する。
- ・ハウスでは、侵入しやすい出入り口やサイドなどの開口部付近を中心に、よく観察する。
- ・薬剤抵抗性の出現を防止するため、同一薬剤は年1回の使用にとどめ、ローテーション防除を行う。

<防除の一例>

●マイトコーネフロアブル 1,000倍 収穫前日まで 1回

●ダニサラバフロアブル 1,000倍 収穫前日まで 2回以内

※上記2剤はハダニの全ステージに効果あり

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。